
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第182号(通巻第249号)

2020年2月28日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL:http://www.cer.yamanashi.ac.jp/

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいても結構です。

■第2回 教師力養成講座の報告

2月6日(木)、山梨大学教師塾プログラムの一環として、『教師力養成講座』を開催しました。

現場経験豊富な講師をお迎えしてのワークショップ型講義および若手の先生方による体験発表等を展開し、社会人として、教師として活躍する数年後の自分の姿を思い描きながら、自身の「今」を見つめ直すことを願いました。学部2年生の118名が受講しました。



辻本昭彦先生

アンケートには多くの肯定的な意見が寄せられました。「ただ話を聞き、『こういう先生になれ』と言われるのではなく、グループでの討議なども含み自分で実感できる内容だった。」「正直、ちょっと面倒くさい会だと思ったけど、参加してみたら楽しかったし、面白かったし、何よりためになった。」といった本音を交えた声もありました。一方で、座席の配置など運営面での反省も見いだされましたので、今後への課題としていきます。ワークショップ型講義の講師をお務めいただいた辻本昭彦先生(法政大学)、体験発表をいただいた中村舞華先生(かほる保育園)、小笠原咲先生(甲府市立甲運小学校)、長田敏希先生(甲府市立伊勢小学校)、波多野浩史先生(附属特別支援学校)、沖翔太先生(甲府市立南中学校)、今津彩先生(山梨県立甲府西高等学校)ならびに体験発表講師をご推薦くださった本学先生方、開催を支えてくださった学部事務の皆様、ありがとうございました。

山梨大学教師塾プログラム2019 第2弾

教師力養成講座

日時 令和2年2月6日(木)
13:10～16:00 (受付開始12:45)

場所 教育学部J号館5階 A会議室 (全体会)

対象 学部2年生 (原則全員) 希望する学生・院生

未来を描こう!

■開会行事(全体会) ※学生証での出席登録あり

■ワークショップ型講義
講師 辻本 昭彦 先生(法政大学理工学部・兼任講師)
OPPA実践の第一人者、中学校教員として長年ご活躍されています。

■体験発表等(分科会) ※希望する会場に移動します。

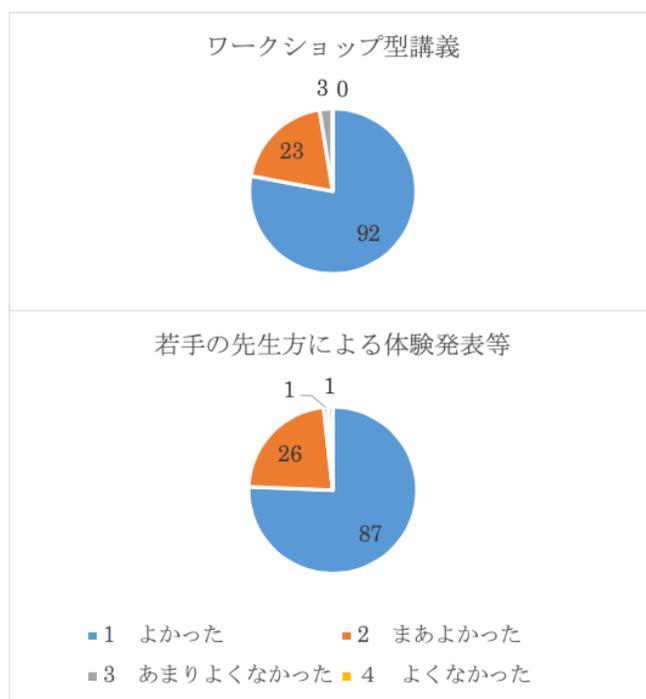
LC11: 保育園 および 小学校 より
中村 舞華 先生(みほる保育園) 小笠原 咲 先生(甲府市立甲斐小学校)

LC12: 小学校 および 特別支援学校 より
長田 敬希 先生(甲府市立伊勢小学校) 波多野 浩史 先生(附属特別支援学校)

LC17: 中学校 および 高等学校 より
沖 翔太 先生(甲府市立南中学校) 今津 彩 先生(山梨県立甲府西高等学校)

各校園でご活躍の若手の先生方より体験発表をいただきます。その後、ピア・サポートタイムとして、実習や教職志望、職業観等への質問・相談を受付けます。先輩社会人の姿、現場で活躍する先輩教員の話に触れ、教職志望の有無に関わらず、ご自身のキャリア発達に役立ててください。

■閉会行事(分科会ごと) ※アンケートあり



■愛媛大学教育学部 視察報告

山梨大学教師塾プログラムの一環として、愛媛大学教育学部における教員養成について調査を行いました。以下はその概要です。

- 1 日 時：令和2年1月29日(水)
- 2 視察者：准教授 猪股 真弥・田中 一弘
- 3 聞き取り内容

(1) 教員就職状況

- ① 平成29年度より特に小学校教員志望学生について合格率が高い状況が続いている。
- ② 令和2年度の入学試験から集団討論を取り入れ、教職に就きたいという強い意志や、コミュニケーション能力などの教員として必要な資質を重視した入試を実施し、質の高い教員養成を目指している。

(2) 教員養成における特徴

- ① 令和2年度より教育学部の養成課程が改組され、中・高等学校免許でも特別支援教育コースを履修できることとなる。
- ② 学部1年次から4年次まで切れ目のない教育実習プログラムが組まれている。
 - 1年次：附属学校園での「観察実習(必修)」
 - 2年次：出身学校で行う「ふるさと実習(希望者)」
先輩の本実習を参観する「プレ教育実習(希望者)」
 - 3年次：本実習(必修)
 - 4年次：応用実習、他校種実習(希望者)
 - 1～4年次：地域連携実習(希望者)
- ③ 複数教科・複数学校種の免許を取得可能としている。

(3) 教職支援の取組

- ① 全学的な組織である教育学生支援機構の一つに「教職総合センター」があり、全学的な教職支援を行っている。
- ② 「教職支援ルーム」が地域連携実習の窓口となっている。

(4) 教職大学院における特徴的な取組，県教育委員会との連携

- ① 令和2年度から2コースを新設し，定員を15名から40名へ増員する。

令和1年15名（リーダーシップ開発5名，教育実践開発10名）

令和2年4月より40名（令和1年度までの15名に加え，教科領域コース15名，特別支援教育コース10名を新設）

- ② 連携協力校110校から実習校を複数選択でき，学びたいことが学べるオーダーメイド実習を実施している。
- ③ 県教委と連携し，若年教員や教員志望学生を対象に休日に行う「えひめ教師塾」の講師を教職大学院生が務めるなど，実践的な指導力の育成につなげている。

(5) 附属学校園の状況

- ① 愛媛大学教育学部には，附属の幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校，高等学校がある。
- ② 各附属学校園では研究発表大会を開催している。今年度行われた附属特別支援学校の研究大会では，公開授業の1つを特別支援学校中学部の生徒と附属中学校1年生の交流に加え，附属幼稚園の園児の参加や学部生が運営面の手伝いをするなどの連携が図られた。



■山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」の開催報告

令和2年2月13日(木)，教員採用試験に合格し4月から教壇に立つ予定の学生や，将来教員を目指している学生を対象に，山梨大学教師塾「初任者元気アップ講座」を開催しました。当日は，学生13名と教員1名が参加し，有意義な時間を過ごしました。

講師としてお迎えした先生は，小田切善和先生（甲府市立山城小学校主幹教諭），深澤光彦先生（甲府市立南中学校主幹教諭），菰原桂先生（甲府市立国母小学校校長）の3名で，御自身の経験をもとに，小・中学校の現状や管理職として初任者に望むこと等について，講義をしていただきました。

先生方のお話は，体験談などを盛り込んだ具体的なお話でした。例えば，「朝の時間を大切に」「A4ノートを活用しよう」「子どもとの遊びで見えてくる」「学校で一番大切なことは安心安全」「教師は授業で勝負」など，教師としての心構えやアイデアなどが満載でした。また，菰原校長先生は，昨年春に本学教職大学院を修了した初任者の一日の様子を，スライドを使って話してくださいました。朝の出勤時間から始まって，休み時間の過ごし方，授業の様子や放課後の使い方，退勤時間まで。さらには，若い先生に期待することなどのアドバイスを，校内の先生方にアンケートを実施するなどして，まとめてくださいました。「礼装は用意



国母小：菰原校長先生



山城小：小田切先生

しておくこと」「女性はコサージュがあれば...」「赤ペンやスタンプ、ジャージや水着」「台風や雪の時、また行事の時には早く出勤した方がいい」などの暗黙のルールと言われていることまで含めて紹介してくださり、学生にとっては、4月からの学校生活が、とてもイメージしやすくなったのではないのでしょうか。参加者の不安を減らし、現場に立つ希望と勇気を与えてもらった時間となりました。

参加した学生は、講師の先生方の話に、メモを取りながら、素晴らしい態度で臨んでくれました。4月からの現場の勤務でも、山梨大学出身という自信とプライドを持って、子どもたちと笑顔あふれる実践をし、素敵なお先生になってくれるであろうと確信できました。



甲府南中：深澤先生

◆参加者アンケートより（抜粋）

- 様々な校種の観点からお話を聞くことができ、そこから多くのことを学ぶことができました。
- 現場の先生方からの体験談などを通して、これからどのような教員生活を送っていけばよいかの見通しを持つことができました。
- 具体的なエピソードを聞いて良かったです。事前にしておいた質問も解決できてよかったです。
- いままでの講座とは異なり、4月から現場に入るにあたり、具体的な内容のお話が多く、イメージを持つことができ、必要な準備についても考えられました。
- 4月からの生活に向けての心構えや留意すべきことについて知ることができました。
- 先生方の話はとても参考になるので、少し気持ちが軽くなりました。特に、新任の先生が一日をどのように過ごしているかや必要なものなどは、現場に出ていく上で、現場の雰囲気を感じられ、来年度からのイメージができてよかったです。
- 教採の勉強で得られなかった現場のリアルがみえました。まだまだ具体的な部分がみえず、不安もありますが、もう一度、先生方が用意してくださった資料を読み、役立てていきたいです。

■第4回連携・教育研究会（山梨県総合教育センター研究大会）の報告

令和2年2月20日(木)、山梨県総合教育センターにおいて、「2019年度山梨県総合教育センター研究大会」が「やまなしの学び 新たな時代へ ～すべては目の前の子供たちのために～」のテーマのもと開催されました。この研究大会は、第4回連携・教育研究会と兼ねており、本学からは来賓として、中村和彦学部長、田中勝附属教育実践総合センター長が、また、アドバイザーとして、附属教育実践総合センターの渡井渡特任教授、氏原一宏客員教授、小川巖客員教授、奥田正治客員教授、石丸洋一客員教授、窪田新治客員教授、望月栄一客員教授、小林玲子客員教授、山本英寿教授、饗場宏教授、成田雅博准教授、川本静香准教授、猪股真弥准教授、田中一弘准教授の合計16名が参加しました。



この研究大会は、県内外の小・中・高・特別支援学校の教職員や大勢の教育関係者に対して、山梨県総合教育センターの今年度の研究の成果を発信するとともに、特別講演やラウンドテーブルなどをお互いに学び合える機会となっています。

アドバイザーである山梨大学の先生方は、センター研究及びポスター発表の指導助言、ラウンドテーブルでのファシリテーターとして関わりました。

今年度の概要を以下にお知らせします。

○開会行事

○特別講演

山梨県立図書館長で杏林大学教授の金田一秀穂氏を講師に、「言葉と教育」と題して約70分間の講演が行われました。内容として印象に残っていることは、言葉は人とのつながりを作ることや、コ

コミュニケーションの道具として使われることが多いが、「考えるために」使う必要があるということでした。生活するうえで必要不可欠な「言葉」について改めて考える貴重な機会となりました。

○ポスター発表

今年度のセンターの研究内容[4領域(①授業づくり・学校づくり(小学校, 中学校, 高等学校), ②情報教育, ③教育相談, ④特別支援教育), 及びこすもす教室, 一般留学生, 外国語教育の計10の領域・グループ]について, 17のブースで2回にわたって情報提供が行われました。



○ラウンドテーブル

4領域(授業・学校づくり, 情報教育, 教育相談, 特別支援教育)に分かれ, それぞれの会場で5人のグループを作り, 各領域で設定した研究テーマのもと, ラウンドテーブルが行われました。本学のアドバイザーも, センター指導主事とともにファシリテーターを務めました。70分と限られた時間のなか, 個人で考える時間と意見を交流する時間とを効率よく使い, 熱心な討議となりました。多くの情報提供, 情報共有がなされ, 大変有意義な時間を過ごすことができました。



これまでのセンターだよりの一部は, <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。